

## 編集後記

この編集後記を書いているのは平成23年8月ですが、5か月前の3月11日に東日本大震災が起り、死者、行方不明者を合わせると2万人にもものぼる未曾有の被害となりました。ここに謹んで、亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。

地震発生時、私は旧中央市民病院5階の手術室で手術中でしたが、異様に長くゆっくりとした揺れに、底知れぬ恐怖を感じたのを憶えています。この地震のマグニチュードは9.0で日本観測史上最大のものでした。この災害は単独でも、普通なら人が一生の間に経験しなくても済むような、まれで巨大なものでしたが、加えて福島第1原子力発電所の損壊と放射能物質放出事故が続き、我が国は存亡の危機に立たされています。神戸市民病院機構からも中央市民病院の災害派遣チームDMATをはじめ、多くの職員が現地入りし、また災害寄付金を送って支援を行いました。しかし、長期的に見ると、今回主に被災した福島、宮城、岩手の3県は一部の中核都市を除けばもともと医療過疎に悩む地域であり、今後、次第に医療への深刻な影響が表面化してくるものと思われます。我々は今も日常業務の遂行で手いっぱい毎日ではありますが、日本全体の医療、ひいては国のあり方についても真剣に考える必要があると思うこの頃です。

この紀要第49巻では原著論文3編、総説1編、症例報告1編、笠原がん研究基金報告15編、C

PC報告と論文および学会発表一覧を掲載しております。市民病院で行われた学術活動の記録として、ぜひご一読ください。例年通り活発な研究活動が行われていますが、学会発表の多さに比して原著論文になっているものは相対的に少ないのが残念です。研究を論文にすると、自身の研究を客観的に眺めることができ、知識が整理され、将来の診療の糧となります。我々、紀要編集委員は投稿していただいた論文を、より良い形にして採択できるように支援しております。学会発表は行ったが、未だ論文文化できていない研究などがありましたら、ぜひ気軽に紀要に投稿してみてください。紀要への論文投稿が少ない原因の一つに、出版まで時間がかかることが挙げられますが、これには、論文、学会発表の著者、共著者の所属確認が容易でないという事情があります。市民病院には多くの医師、医療関係者が所属し、異動も多いため、特に学会発表共著者の所属を確認して掲載するには膨大な労力を要します。そこで当編集委員会では、紀要出版の迅速化のために、できるだけこれらの掲載情報を簡素化し、報告、編集ともに余分な労力をかけずに済むような工夫をすることにいたしました。第50巻からは論文や学会発表一覧の体裁が少し変わりますが、引き続きご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

中央市民病院

副院長 内藤 泰